

島根県 取組成果発表報告

益田高校

吉賀高校

石見オロチCORE

ハイスクールネットワーク構想
～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

江津高校

津和野高校

事業の背景と課題

1. 人口が県東部に偏在し、西部(石見地区)は減少
2. 学校内資源の活用や視点の硬直化
3. 西部にある高校は全て中小規模校
4. 西部出身の教員が少なく、安定しにくい学校経営
5. 高校魅力化コンソーシアム同士の連携



実現したい価値



育成を目指す資質・能力

「広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成」

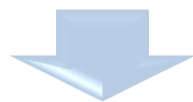
- (1) 高大連携学力向上…大学の教官や学生の知見を得る
- (2) 地域愛の醸成…地域課題解決型学習を各校魅力化コンソーシアムと連携を図りながら充実させる
- (3) ICTリテラシー向上…ICT活用を増やす
- (4) 非認知領域(主体性、協働性、社会性、探究性)の育成…地域課題解決型学習等で自ら企画・行動する機会を増やす
- (5) 協働性の向上…自校のみならず他校を含めた活動の場面を増やす
- (6) 質の高い学びの保障による学力の向上…免許外教員の指導や未開講教科・科目を減らす

1. ICT機器を利用した遠隔授業の充実

2. コンソーシアムの充実

3. オンラインを活用した学校間連携による探究学習の深化

4. 探究学習やキャリア教育におけるオンラインによる地域を越えた外部人材活用の可能性

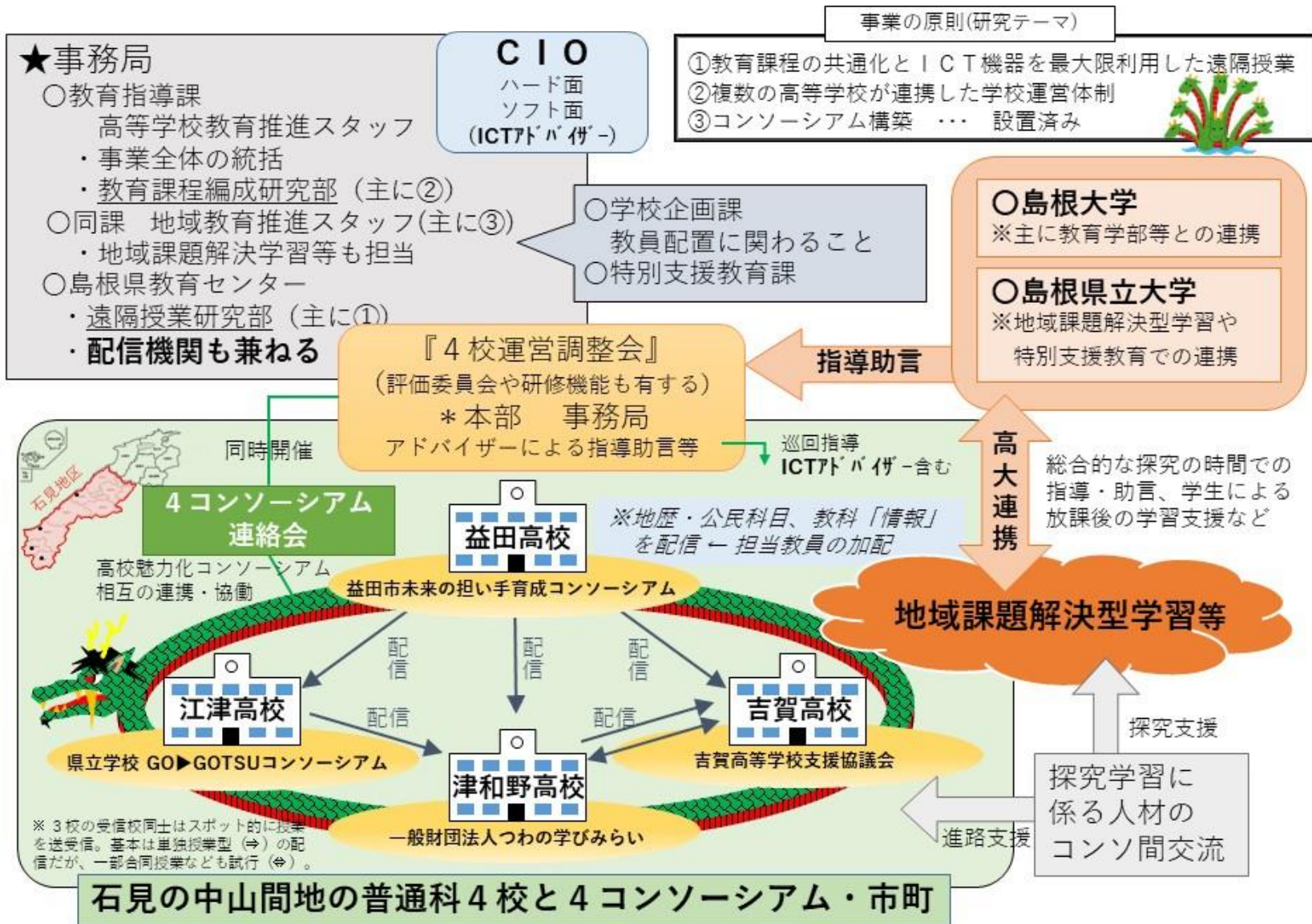


「しまね教育魅力化ビジョン」

～ ふるさと島根を学びの原点に未来にはばたく 心豊かな人づくり ～



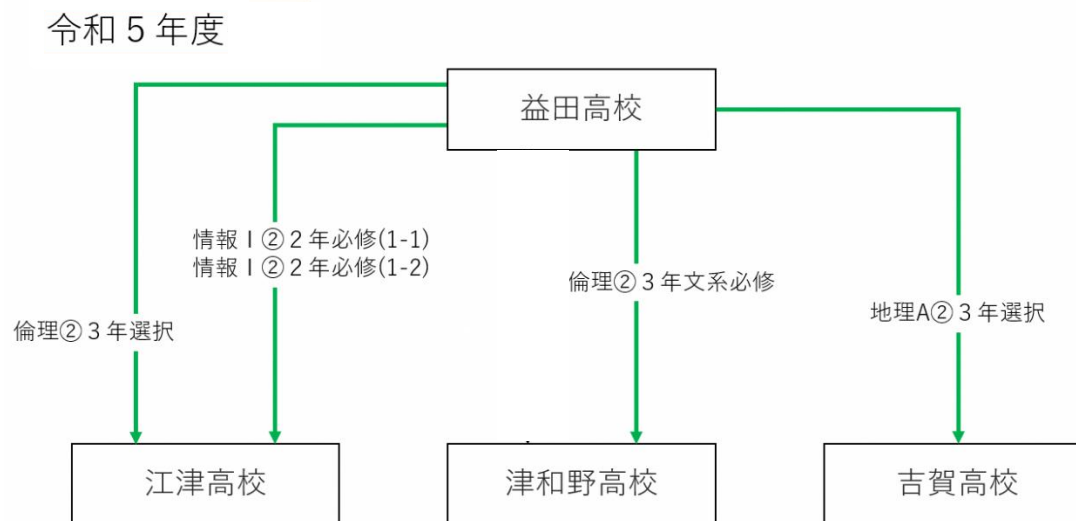
島根県の体制



遠隔授業に関する取組

本事業を通して明らかにしたい事項(調査研究テーマ)

(1) ICT機器を利用した遠隔授業の実現



(1) ICT機器を利用した遠隔授業の充実

1年次(R3年度)

・遠隔授業の手法の模索

〈試行配信〉 島根県教育センター → 受信予定校
学校配信拠点校 → 受信予定校
英語・情報Ⅰ・数学Ⅰ・世界史

・授業配信教員を対象とした研修

3月・・・遠隔授業の手法、クラウドを活用した授業、評価について研修

2年次(R4年度)

・受信校サポート教員を対象とした研修

4月・・・受信機器設定、授業サポートの役割について研修

・遠隔授業本格配信

倫理・地理B・情報Ⅰの授業配信実施

3年次(R5年度)

・受信校サポート教員を対象とした研修

4月・・・受信機器設定、授業サポートの役割について研修

・遠隔授業本格配信

倫理・地理A・情報Ⅰの授業配信実施

・遠隔授業公開授業

倫理・地理A・情報Ⅰの公開授業実施



島根県教育センター→津和野高校 英語試行配信



島根県教育センター→津和野高校 情報Ⅰ試行配信

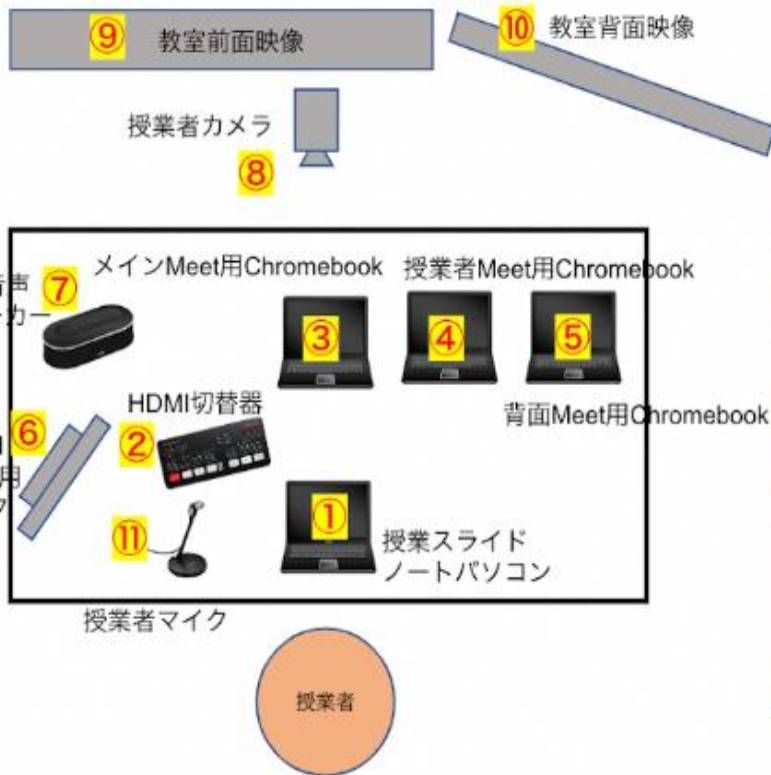


授業配信教員を対象とした研修





配信授業（配信側・環境・技術）



配信授業（受信側・環境・技術）



評価と見取り

■遠隔授業で行った学習活動(益田高校→津和野高校 2年生 倫理 2単位) Google Classroom、Google Spreadsheets、Google Jamboardを利用したジグソー活動

○ Google Classroom (課題配信: エキスパート活動)

エキスパート活動A
muto tatsuki・6月9日 (最終編集: 6月9日)

エキスパート活動Aの資料 (ユダヤ教の成立・キリスト教の成立) は次の通りです。

エキスパート活動B
muto tatsuki・6月9日

エキスパート活動Bの資料 (仏教の成立) は次の通りです。

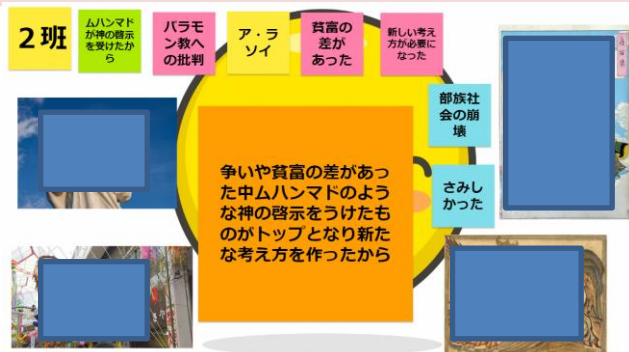
エキスパート活動C
muto tatsuki・6月9日

エキスパート活動Cの資料 (イスラーム教の成立) は次の通りです。

○ Google Spreadsheets (共同編集: エキスパート活動)

A1	A	B	C	D	E	F
1	番号	氏名	1 各時代を代表する次の3つの絵画を見て、人々の価値が何から何に変化したか推測してみよう	エキスパート資料	2 ルネサンスから宗教改革を経て人々の価値の中心が「神」から「人間」へシフトした理由を考えてみよう。(エキスパート活動)	3 ルネサンスから宗教改革を経て人々の価値の中心が「神」から「ト」した理由を100字程度でまとめよう。(ジグソー活動後) そのエキスパート活動後の意見、各社の意見を参照し、参考となる部分を引用100字程度とは +10%程度 つまり90字から110字程度
2	2115		キリスト教の偉い存在の人から農民たちが中心が変わった	A	学習グループを組織し芸術・学者を支援して、預め政治・外交などで優れた力を発揮したから。	修道院長が女性へ恋をしたり協会の免許制度に不満を持つものが現れからの批判が高まり、離れてゆき、どんどん神への信頼がなくなってきたから。(10班、自分の班7班オレンジの付箋参考)
3	2116		キリスト教の偉い人が中心だったけど16世紀になると、農民たち中心になった	A	コジモさんが市民を支配しその孫のロレンツォさんが受け継いで学術などを広めたから。	キリスト教関連者がこと(免許やデカメロンなど)不信感が大きくなっていったから、市民は宗教よりも人間を中心にしていったから(ボード6班、11班)
4	2117		高い身分の人から庶民の人になった。	A	人々の指導者が神ではなく人間が重要だと考えるようになったから。	神に対する不満、不信が多くなり、人間にも優れた面があると思えば教から離れ人々は自分たちが最高指導者でなければならないと感じた(ムボード12)
5	2119		最高権力者の中心から農民中心になった。	A	芸術によって、自由で個性を大事にして多様な考え方を広めたから。	キリスト教に対しての不信感が募っていった神に対してのイメージがないと思う人が増えて人間に優れた面があると感じた(ムボード12)
6	2120		身分の高い人から低い人になった	B	修道院長が若い女性に恋をしてしまったことで批判が出たから	市民がキリスト教への信頼を失い、人々も神の存在を信じられなくなも価値の中心は人間であると考えたから
7	2121		貴族視点から民衆視点になった	B	神の教えを知っている僧侶が何もできなかったから	5班のまとめの「神だと思われていた人が信用されなくなったから」参照し、僕は修道院や僧侶といった神の教えを告げる人々への信頼が「神」から「人間」へ考え方がシフトしたと思いました。
8	2124		高貴な人から庶民へと変わった。	B	ベストラから離れた市民が助けを求めた僧侶が使えなかったから	
9	2125		位が高い人から農民たちになった。	B	修道院長が女性に恋をしてしまい、キリスト教から批判が高まった。	修道院長が女性に恋し、協会の免許制度に不満を持つものが現れキ批判が高まり離れて行く人が発生しコジモが学習グループを組織した

○ Google Jamboard (共同編集: ジグソー活動)



※著作権保護のため画像を一部加工しています。

総括（遠隔授業）

調査研究テーマ（総括）

（1）ICT機器を利用した遠隔授業の充実

→ 遠隔による授業実施の可能性

- ・対面授業より授業準備に時間がかかる（授業設計の意識改革が必須）
- ・サポート教員は生徒との関係性があれば教員以外でも対応可能
- ・クラウドの有効活用により、見取りを補完・充実させることができる
- ・対面授業は多いほうが、生徒との人間関係の形成につながる

副産物としての気づき

→ クラウド環境を用いた学習（自習）の広がり・可能性

① Google Classroomで課題配布

- ・教科書、ネット活用、生徒間の対話をとおして課題に取り組む

② ①の作業が終わる頃に次の課題を配布（タイマー設定）

※ クラウド環境での学習環境に慣れている生徒であり、なおかつクラス内で対話的な授業風土があれば能動的に自習が機能する

コンソーシアム構築による教育の高度化・ 多様化に関する取組

本事業を通して明らかにしたい事項(調査研究テーマ)

- (1) コンソーシアムの充実
- (2) オンラインを活用した学校間連携による探究学習の深化
- (3) 探究学習やキャリア教育におけるオンラインによる地域を越えた外部人材活用の可能性

(1) コンソーシアムの充実

すべての県立高校に地域との協働体制である「高校魅力化コンソーシアム」を構築
(R3年度末)

(益田高校:R元.12 江津高校:R2.6 津和野高校:R2.3 吉賀高校:H31.1 設置)

1年次(R3年度)

- ・ 学校外の教育資源を活用した探究的な学び(コンソーシアムを活用した教育活動)の実態把握

- | | |
|---------|---|
| 〈益田高校〉 | ・ 益田版カタリバ…高校生が地域の若手人材との対話を通して、自分の将来や地域の魅力などについて考える進路探究学習 |
| 〈津和野高校〉 | ・ ブリコラージュゼミ(1年生)、マイプロジェクト活動(2年生)を支援
・ トークフォークダンスの企画と参加
・ 探究学習等に関わる人材のマッチングサイト開設 |
| 〈江津高校〉 | ・ 県立大学…バーチャル国際交流会(通年)参加、ラオス絵本プロジェクト
・ 江津市都野津町…街プロジェクト、古民家プロジェクト、小学生学習支援 |
| 〈吉賀高校〉 | ・ アントレプレナーシップ教育における都市部大学生の伴走
・ 目線合わせ講演会(教員、地域伴走者対象)の実施 |

- ・ 探究活動成果発表会(各校実施)への参加
- ・ 「しまね大交流会」や「しまね探究フェスタ」(県教委実施)など、生徒の発表や学び合いの場を提供



すでに各校で独自の連携や取組が進み、また私立高校や特別支援学校を含めた複数校でコンソーシアムを構築している学校があり、4校での連携は難しい。

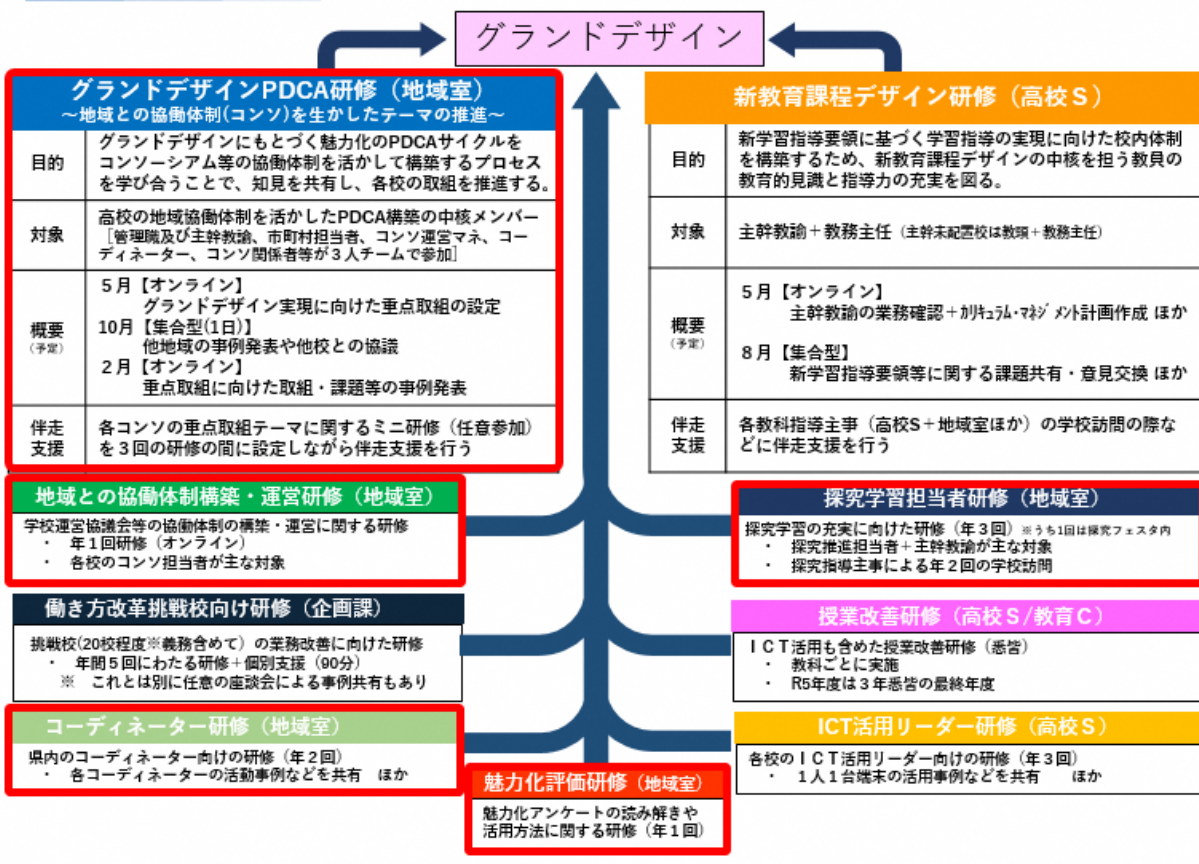
2・3年次(R4・5年度)

全ての県立高校のコンソーシアムに対し、その取組・活動を推進していくフェーズ

全ての高校・地域に対して地域との協働に係る研修や訪問等を実施

CORE4校の「コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組」を推進

グランドデザインの実現に向けた研修体系



<CORE 4校のアンケートへの記述内容>

- ・自治体や学校ごとに、コンソーシアムの取組がかなり異なるとわかった。本校・本地域独自の魅力や資源をもとに、さらなる魅力化に励みたい。
- ・地域の方々を含めた「総合的な探究の時間」の伴走体制の確立等について具体的に進めていこうと思う。
- ・コンソーシアム運営 マネージャーやコーディネーターなど教員以外の視点からの事例発表は大変参考になる。今後も継続してほしい。
- ・グランドデザインについて、普段は高校の先生と話すことが難しいので、このような機会があり、話ができることがよかった。
- ・グランドデザインを校内の視点だけでなく、地域と情報共有しながら見直していくことが必要と感じた。
- ・高校と地域(コンソーシアム)のビジョンを今後いかに共有し、グランドデザインの中に落とし込めるかが課題。

■ 地域との協働体制構築の流れ

「県立高校魅力化ビジョン」の策定

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
取組名	「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業」						「教育魅力化推進事業」			「教育魅力化推進事業」		
支援対象地域	離島・中山間地域 (町村)						離島・中山間地域 市部 (松江、出雲を除く)			全県 (すべての市町村)		
支援高校数	5校	8校					20校 (離島・中山間地域の すべての県立高校)			36校 (すべての県立高校)		
設置状況	対象の地域・高校において、コンソーシアムの前身となる「高校魅力化推進協議会」 (高校と市町村との「協働運営」を志向した協議の場)を設置 ＜平成30年5月時点 13協議会 (16市町村21校) で設置＞									R3年度末までに すべての県立高校で コンソーシアムを 構築		学校運営 協議会導入
	—						高校魅力化コンソーシ アム構築支援事業 (モデル校)		学校運営協 議会制度導 入説明会	コンソーシ アム、学校 運営協議会 研修		

**県立高校
魅力化ビジョン**

平成31年2月
島根県教育委員会

○教職員、生徒・保護者、市町村、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、関係団体等の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制 (以下「高校魅力化コンソーシアム」という。) を、全ての高校において構築する。

項目	2018 H30	2019 H31	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)
高校魅力化コン ソーシアムの構築	高校魅力化 推進 協議会等	構築・展開			全ての高校 で構築	推進

※高校における新学習指導要領が実施される2022年までに、全ての高校において構築

- ・研修
- ・コンソ会議への参加
- ・学校訪問
- ・市町村訪問
- ・予算確保
- ・伴走 など

(2) オンラインを活用した学校間連携による探究学習の深化

2年次(R4年度)

探究学習2校合同実施
(吉賀高校⇄津和野高校)



放課後各校2チームがそれぞれの探究学習の取組を発表し、意見交換を実施。

3年次(R5年度)

探究学習4校合同実施



7月(対面)、11月(オンライン)で探究学習の取組を発表し、意見交換を実施。11月は県内の大学生も伴走者として参加。

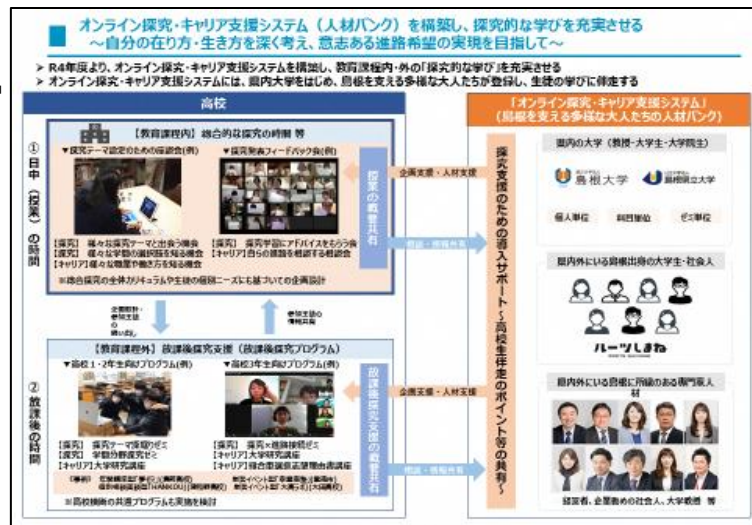
(3) 探究学習やキャリア教育におけるオンラインによる地域を越えた外部人材活用の可能性

1 本事業の背景

学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現には、地域人材など学校外の人材の活用が欠かせないが、調整等に手間がかかり教員の多忙化にもつながる恐れがある。また、外部の人材を活用しようにも、学校外のリソースとの接点が不足(人材の幅・専門性等)しているといった課題がある。そこで、学校外の教育資源を簡易に教員がオンライン上で調達できる手法の構築を目指している。

2 目指す効果

- ① 探究学習、進路指導等における授業の質の向上(県内外の多様な人材からのインプット・アウトプット機会の拡大、良質教材の確保、指導力向上)
- ② 大学入試(主に「総合型・推薦型選抜」)への着実な対応
- ③ 生徒一人ひとりの意思に基づく、多様な進路の実現
- ④ 教員の働き方改革の推進



1年次(R3年度)



津和野高校2年生(文系コース・理数コース29名)と大学生29名とが、1対1で進路に関する対話を実施

目的: 進路選択を前に自らの進路イメージを広げ、自らの興味関心・学びたいことを振り返り、進路選びにおいて大事にしたい要素を言葉にする

2年次(R4年度)

- ①システムで「やれること」と「やれないこと」の明確化
- ②システムを活用していく上での流れや手続き、スケジュールの検証
- ③生徒の学びや成長に対する効果
- ④教員の負担軽減や学びに対する効果

<江津高校>

- ・「伴走研修基礎編・応用編」動画の視聴を通じた教職員研修の実施

<益田高校>

- ・研究領域が近い県内大学の先生方からの課題研究テーマに対するブラッシュアップ・フィードバック

<津和野高校>

- ・考えをまとめたり、自己表現したりするスキルの習得に向けた編集の専門家による講義

<吉賀高校>

- ・探究学習のテーマに近い専門性を持った専門家(教員・研究者、絵本作家、有機農家、ジビエ猟師・商品開発)からの課題設定に対するブラッシュアップ・フィードバック

<③④についての検証結果>

- 地域にはいない人材との接点は、教員も生徒もニーズが高く、生徒の学びに大いに寄与する。専門家(実践者・研究者)、大学生など、どこに焦点を当てて人材登録を促進するか議論の余地がある。
- 人材を探す心理的・物理的負担が省け、前向きで協力的な人材バンクは有用である。
- 接点を持ったあとは、これまでの地域内の外部講師に相談してきたときと同様に調整負担がある。
- いつでもアクセスできる動画のコンテンツは活用しやすい。学習効果は対面に比べれば下がるが効果は十分にある。研修企画の調整や手間が省けることは実証された。



「しまねオンライン探究支援システム」が一定のニーズや教育効果があり、教員の負担軽減にも寄与することが確認できた一方で、登録する人材の質的保証やセキュリティ対策等の運用面に係る課題やそれに伴うシステム開発及びランニングコスト等に係る経費増への解決策を見出すことができなかったため、県として実証を続けることを断念。

3年次(R5年度)は実証を行わない



社会教育課HP「企業等と学校との連携」の紹介

講話や出前授業、インターンシップ、授業支援など、学校を支援するさまざまな分野の企業等を探すことができるサイト



企業等と学校との連携

教育委員会、豊富な教育資源を有する企業や団体と連携し、
明日のしめぬを担う子どもたちの学習と学校教育活動を支援します。



「学校の理解力企業等」登録申請書ダウンロード【Excel】

企業一覧（50音順）



随時、情報を追加しています！

ご不明な点等ございましたら、「事務局教育委員会社会教育課」までご連絡ください。



分野で探す

文化・伝統・芸術	自然・環境	キャリア・職業	安全・安心
金融・経済	福祉・ボランティア	食・健康	科学（理数）
国際理解	その他		



No.	企業団体名	内容	学 校				
			幼	小	中	高	特 支
1	海士町役所 地域協議課	講話			○	○	
2	海士町社会福祉協議会	出前授業、インターンシップ等	○	○	○	○	○
3	有限会社 百年くらぶ	職場見学・体験		○	○	○	
4	カオツ技術工業株式会社	出前授業、インターンシップ等		○	○	○	
5	社会福祉法人 柳森会	職場見学・体験等	○	○	○	○	○
6	法政法人 緑井堂	講話、職場見学・体験		○	○	○	
7	石塚ケーブルビジョン株式会社	出前授業、職場体験等		○	○	○	○
8	島根建設株式会社	講話、職場見学等	○	○	○	○	○
9	株式会社ひまわりグループホームのたまご	職場体験・見学		○	○	○	
10	社会福祉法人 海士町社会福祉協議会	講話、職場体験		○	○	○	



企業・団体名	海士町社会福祉協議会	
	学校に出かけての学習活動支援 (出前授業等)	体験活動・見学の受け入れ (職場見学・職場体験等)
内容	ふるさと福祉学習(出前授業・講話)	福祉体験(見学、体験、インターンシップ可)
分野	福祉・ボランティア	福祉・ボランティア
謝金・材料代等	不要	不要
交通費等	不要	
対象	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
活動範囲	企業・団体の所在地	県全域
備 考	ホームページアドレス	http://www.acsw.sakura.ne.jp/
連 絡 先	住 所	〒684-0403 隠岐郡海士町3969-1
	電 話	0 8 5 1 4 - 2 - 0 0 1 0
	F A X	0 8 5 1 4 - 2 - 0 6 0 0
	担当者名	事務局長 XXXXXXXXXX

総括(コンソーシアム)

調査研究テーマ(総括)

(1) コンソーシアムの充実

- コンソーシアムの理念を学校と地域が共有し、互いの課題に対し、主体的に解決しようとする、対話の風土ができてきた。
- 他コンソーシアムの事例を共有することで、協働体制や探究学習の深化・充実につながっている。

(2) オンラインを活用した学校間連携による探究学習の深化

- 参加生徒や教職員の満足度は高い。授業時間内での発表・意見交換は、授業進度の違いや授業時間の調整に苦心する。

(3) 探究学習やキャリア教育におけるオンラインによる地域を越えた外部人材活用の可能性

- 県内(自他地域含め)の人材活用には、社会教育課HPは有効。横連携の必要。一方で、大学生や学術的な専門性を持った人材、県外の人材等にはアクセスできないため、学校が求める幅広いニーズには対応できない。

今後の展望

遠隔授業

- ・遠隔授業配信センターの拠点整備
- ・遠隔による補習・検定指導・不登校対応に向けた研究
- ・しまね教育魅力化ビジョン(2期)での遠隔教育の位置づけ・計画策定

コンソーシアム

- ・高校と地域双方に価値を生み出す持続可能なコンソーシアムの推進
- ・オンラインを活用した探究学習の深化
 - 高大連携プロジェクトを活用した定期的な探究学習会の実施／
大学生人材の活用
- ・コーディネーター人材の配置・育成
 - 公民館(社会教育主事等)と連携したコーディネーター機能の活用